

STOP「#アオシギいない」！

アオシギの保全のための越冬地での行動範囲、渡りルートと繁殖地の解明

細谷淳¹、田谷昌仁^{1,2}、竹田山原楽^{1,2}、 1.日本鳥類標識協会 2.東北大学 生命科学研究科

背景

アオシギ *Gallinago solitaria* は冬鳥として山間部の溪流や湿地に生息します。4府県で絶滅危惧種II類に指定され**減少が心配されています**。また9都県で情報不足とされ、その個体数の増減の傾向もわかっていません。警戒心が強く、隠蔽度の高い羽色のため見つけづらく、越冬期にどんな環境をどの程度の広さで利用しているかなど、その**生態はよく分かっていません**。

標識調査の情報も少なく、1961年～2020年の過去**60年間に24羽のみ標識放鳥**されたにすぎず、日本で越冬する個体群の**渡りのルートや繁殖地も知られていません**。

多くのバードウォッチャーが冬期に本種を探しますが、SNSで「アオシギいない」「アオシギいません」がハッシュタグになるほど見つけるのが難しい鳥です。

発見が難しいため適切なモニタリングが出来ず、越冬地の生息環境が知られないまま悪化し、個体数が減ってしまうおそれがあります。「アオシギ本当にいない」を防ぐための適切なモニタリング手法を開発する必要があります。



これまでの成果

2021年11月～2022年5月に宮城県および福島県で延べ31日間の調査を行いました。この調査により**夜間の生息環境（17地域、29羽）を発見**しました。また**捕獲方法を確立し13羽の捕獲に成功**しました。

また前シーズンに標識放鳥した2羽のうち1羽が同じ場所に戻ってきたことを確認しました。同属のタシギやアメリカタシギの研究では、繁殖シーズンの後に同じ越冬地に戻ってくることが知られおり(Davies et al. 1977; Cline et al. 2011)、**越冬地への高い固執性**が期待できます。

GPSロガーの性能向上

近年GPSロガーの性能が向上し、2.8gとアオシギに装着可能な重さのものでも、**1時間毎の位置情報を400日分保持**できる上、**再捕獲なし**に最大で800 mの距離からデータをダウンロードすることが出来るようになりました。

アオシギの越冬地での行動、渡りルート、繁殖地の解明のための条件がついに揃いました！

目的：アオシギの保全のために

アオシギの保全を考える上で以下の3つの課題がありました。

- ①越冬地（日本）での生息環境、行動範囲などが分かっていない
- ②見つけるのが難しく個体数を適切に把握できない
- ③渡りルートや繁殖地が知られていない

3つの課題をGPSロガーを用いて次のように解決します。

①越冬地での生息環境、行動範囲の解明

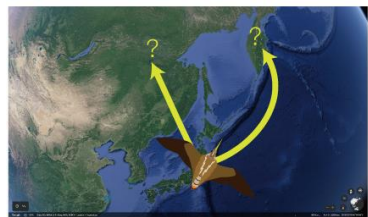
越冬地での保全に必要な、利用環境、行動範囲などの情報を収集します。

②越冬地でのモニタリング方法を確立

①で得た情報を元に、個体数の増減傾向を把握するためのモニタリング方法を検討します(STOP「#アオシギいない」)。

③日本で越冬するアオシギの、渡りルート解明、繁殖地の解明

大域的な規模での保全を考えるために必要な渡りルートの解明・繁殖地の解明を行います。



研究計画

調査期間 捕獲調査: 2022-2023越冬期 追跡調査: 2022-2023越冬期～2023-2024越冬期

調査地 宮城県および福島県

調査方法 越冬地でアオシギを捕獲し、GPSロガー(Druid NANO 2.8g 体重比約2%程度)をテフロンリボンを用いてLeg-loop法(Rappole and Tipton 1991; Sanzenbacher et al. 2000)で装着します。その後定期的にデータのダウンロードを試み越冬期の生息環境・行動範囲のデータを取得します。また翌年の越冬期に再びダウンロードを試み、渡りルートと繁殖地の情報の取得をします。アオシギが比較的日陰を好む可能性が懸念されるため、装着に先立って太陽光発電のテストを行いある程度日陰で過ごしていても動作する設定を探ります。

	2022秋～2023春	2022夏	2023秋～2024春
	越冬期	繁殖期	越冬期
ロガーテスト	↔		
越冬地での行動圏を調査	↔		↔
渡りルートと繁殖地を解明		↔	

ご支援の使途

皆様に頂いたご支援は、ガソリン代、調査機材購入費(GPSロガー、通信用八フ)、およびそれらの通信費として利用する予定です。本研究から得られた成果は学会発表・論文等で公開します。